

とよおか



# 農香だより

No.53  
2022.

# 12



八代オクラの収穫に挑戦！！ 「八代保育園の園児たち」

- 豊岡市長に意見書を提出しました ..... 2P~4P
- 頑張ってます！農地利用最適化推進活動 ..... 5P
- 特集 伝統農産物・特産農産物の紹介 ..... 6P
- きばっとなる人らあ ..... 7P

# 豊岡市長に意見書を提出しました

令和5年度予算編成に先立ち、10月7日、大原会長をはじめとする役員5名で市長室を訪れ、意見書の趣旨を説明し、市長に意見書を提出しました。



市長と大原会長、役員

## 1 遊休農地の発生防止及び解消

### (1) 農地利用最適化に関する連携支援について

農業委員会は、遊休農地の発生防止及び解消のため、区・農会・営農組合等の協力を得て、担い手への利用集積などの推進を図っていますが、市は、県・国・農地中間管理機構の補助制度の活用などによる連携支援（施設設備等の初期投資及び軌道に乗るまでの技術指導等）をより一層充実させたい。

### (2) 発生防止及び解消に向けた具体的な支援について

遊休農地を活用できるよう、転作物物、ビオトープ等による活用提案を行うなど幅広い支援を進められたい。

⑦ 遊休農地及び遊休農地予備軍が増加しています。市は、区・農会が地域で守るべき農地を選別し、保全すべき農地を維持していくことができれば、多面的機能支払交付金制度を活用するなど幅広い指導をされたい。

⑧ 大型機械の使用による農作業の効率化のため、水田の大型化や農道拡張、水路改修等の基盤整備について、市・県が一体となつてより一層推進されたい。

⑨ 中山間地域では、高齢者が地域の担い手となり農地を守っていません。市は、個人で対応できない遊休農地について、地区組織で管理に取り組むことができるよう指導や支援の充実を図られたい。

### (3) 遊休農地の特定利用における農業振興地域整備計画の変更について

すでに遊休農地となっている農地については、地域で守るべき農地とそうでない農地を話し合いの上で合意形成を図って整理することが必要であると考えます。

なお、守るべき農地でない判断した農地に、再生可能エネルギーの導入促進として発電設備設置の計画がある場合は、当該農地を農用地区域から除外し農業振興地域整備計画を変更できるようにするため、豊岡市の再生可能エネルギー特区の創設について検討されたい。

## 2 担い手農家や集落営農の育成と支援

### (1) 担い手農家の育成と支援について

⑦ 農業者の高齢化と後継者不足の現状と今後さらに農業者が減少していくことが予想されるなか、若者の就農に期待するところです。農業スクールは、農業の担い手育成に大きな役割を果たしていると評価しています。市は、同制度を今後継続するとともに、さらに新規就農者を増やすために本制度の周知・浸透に努められたい。

スマート農業など農業の先進性をアピールし、若者がやってみたい新しい農業の姿にも着目し、担い手の確保に努められたい。

⑧ 認定新規就農者（原則45歳未満）及び農業スクール卒業生の自立を促進するため、「豊岡市若手

農家支援事業」等の施設・機械の初期投資に係る支援制度が設けられているが、若手農業者の事業をスムーズに軌道に乗せるため、技術指導も含めた継続した支援をより一層充実させたい。

### (2) 集落営農及び法人組織の育成と支援について

⑦ 集落営農の構成員は年々高齢化しており、また法人組織の人材の確保が課題となっています。採算性のある農業を目指すことも農業経営を維持するためには重要です。市は県・国・農地中間管理機構・JAと一体となつて、集落営農及び法人組織が持続できるよう長期にわたる育成・支援制度を確立されたい。

⑧ 集落営農及び法人組織は地域農業の主要な担い手であるが、農産物価格の低迷や人的資源の不足など厳しい経営環境下にあり、コロナ禍の影響でさらに深刻化することも想定されます。集落営農及び法人組織の安定経営のため、労働力軽減や農業技術の継承に寄与する省力化機械の導入や既存機械更新時の支援制度を検討されたい。

### (3) 肥料等生産資材高騰に対する支援について

水稲・転作物物に対し、一律3,000円/10aの給付金支援を継続するとともに、野菜や花の園芸作物

のように生育資材高騰の影響が大きい転作作物については、さらに手厚い支援を検討されたい。

### 3 地域を支える農政

#### (1) 人・農地プランの取り組みについて

ア 人・農地プランを市町村が策定する計画として法定化されたにも拘わらず、地域においては、この事が浸透されていません。

今後、区・農会等による話し合いでプランの実質化を推進するため、市は農業委員会・JA・区・農会との連携を深める施策に取り組みたい。

イ 小規模地域においてはマンパワーが不足していることから、これを補う支援策を検討されたい。

ウ 人・農地プランの関連施策が見直されたことにより、市・農業委員会の負担増が予測される。県・国へ交付金の増額を要望されたい。

#### (2) 多面的機能支払交付金制度の推進について

ア 共同活動について、交付金事務の簡素化について、県・国へ引き続き働きかけられたい。

また、全地域が取り組めるよう、制度の周知徹底に努め一層の推進を図られたい。また、地域住民が

農地を守る観点から、資材、飼料及び肥料等を助成金メニューに加えるよう働きかけられたい。

イ 施設の長寿命化活動の推進について

農業施設の老朽化が進んでおり、施設の長寿命化活動について積極的な指導・支援を推進するとともに、制度改正により希望する事業ができなくなっているため、制限の緩和について、県・国に働きかけられたい。

#### (3) 中山間地域における農村を活性化するための支援について

ア 新規就農者の育成支援

認定農業者などの担い手がいない中山間地域において、今後、地域における中心的な役割を果たす事が見込まれる農業者として「定年帰農者」や農業と他の仕事Xを組み合わせた「半農半X」など多様な形態で新規就農を促すための支援を検討されたい。

イ 営農組合の設立指導

委員としての活動には限界があり、一つの集落では営農組合などの組織確立は困難な状況であることから、意向調査など集落の方向性を決定付けるため指導・支援をお願いされたい。

#### 4 有害鳥獣の被害防止対策の強化

##### (1) 被害防止の対策について

ア シカ、イノシシなど、有害鳥獣の被害防止対策として、電気柵・ワイヤーメッシュ等の防護柵が非常に有効であると評価しています。

しかしながら、ワイヤーメッシュについては、小動物にも対応した規格の変更と事業補助率の拡大を検討されたい。補助金を利用した既存施設については補助サイクルの短期化と、全般を通じた事業採択枠の拡大など支援をより一層充実させたい。

また、ハード事業のみならず、有害鳥獣被害対策に関する知識・技術の習得や最新の情報を入手するため、ソフト面の強化に繋がる広報活動や研修会等を開催するなど検討されたい。


イ バッファゾーンを整備する補助事業について、採択件数を増やすよう、県・国に働きかけられたい。

ウ サルによる被害は、農作物のみならず、家屋などの損傷が非常に深刻です。

既存のサル被害対策補助制度の充実を図り、捕獲に係る保護政策の見直しを県・国に働きかけられたい。

##### (2) 個体数減少の対策について

有害鳥獣の被害は、水稲など農作物の食い荒らしだけでなく、イノシシによる畦畔、農道などの掘り起こしによる被害が広範囲に及んでおり、



出石そば

作太郎


本場の味をご家庭で

出石そば製造販売・そば製粉

今森製麺所

製造直売 全国発送

〒668-0263  
兵庫県豊岡市出石町福住329  
Tel.0796-52-3816  
Fax.0796-52-6426



●出石そば(生・半生・乾) ●祝事・仏事・ご贈答品に ●各種麺類・そば粉販売

純生そば・自家製だし付

好評発売中!!

営農意欲の減退に繋がっています。これらの被害を軽減するには、個体数を減少させる事が最大の有効施策と考えます。

よって、新規狩猟者の増加を図るための支援と狩猟条件の緩和などについて県、国に働きかけられたい。

## 5 環境にやさしい農業の推進 及び地産地消と食農教育

### (1) 地産地消の推進について

2003年より取り組んでこられた農業・化学肥料に頼らない環境創造型農業の「コウノトリ育む農法」のお米や「コウノトリの舞」の農産物は、安全・安心の証である豊岡ブランドとして、消費者の信頼を獲得し消費拡大に繋がるとともに、農業者、農村にとって明るい未来に繋がるものです。

さらなる普及を図るため、取り扱い店舗の拡大や学校給食の食材利用の拡大について、市の指導強化はもとより取り扱い事業者への優遇措置を講じられたい。

### (2) 食農教育の推進について

社会・食生活の多様化は、家庭の味や地元農産物を使用した伝統食の継承が失われるなど、食への悪影響は少なくありません。

次世代を担う子どもたちに、こども園・小学校の授業の一環として野菜栽培、調理体験や地域の農業体験での農業者との交流を通じて、食を

生み出す農業の大切さを理解する取り組みを継続されたい。

### (3) 農業が生み出す環境問題について

近年、プラスチックごみによる海洋汚染が問題視されるなか、農業生産においても、マルチや被覆肥料などのプラスチック問題について適切な対応を講じられたい。

## 6 その他

### (1) 「スマート農業」の推進について

「スマート農業」の実施は、農業者の労力軽減、生産性向上など農家の「働き方改革」に大変有益であります。

特に豊岡市においては主力とされる水稲への導入が必要と考えます。

田植え、草刈り、耕うん、防除などの作業に取り入れるため、最新の情報や活用事例の紹介など農家への積極的な情報発信に努められたい。

また、導入にあたって高額となる費用負担に対し、機械のレンタルやリース制度の活用や補助制度の拡充についても検討されたい。

### (2) 「農福連携事業」の仕組み作りについて

障がい者・高齢者の方など農業者以外の方への農作業の委託は、人材・労働力確保の面からも重視する必要があります。

しかし、農作業の委託には双方の問題点や立場を理解することや作業

能力向上のための援助も必要であり、委託側と受託側の双方の利益が一致することが課題であります。

「農福連携事業」推進のため、相互の理解と交流を図る窓口を新設し対応されたい。

### (3) 異常気象における対応について

近年の異常気象により、高潮、豪雨、豪雪などによる農産物や農業機械への被害が増大しています。JAなど関連団体とも連携し、さらなる対策や支援を検討されたい。

また、円山川堤防が整備強化されたが、豪雨時には排水処理が困難となり、内水氾濫による農作物被害が発生しています。国に対して大型排水ポンプ設置の要請を検討されたい。

### (4) 中山間地域の農地を守るために

遊休農地の増加、農地の山林化が進む中山間地域においては、獣害対策や水路の補修には多額の資金が必要であり、農業者が投入する労力にも限界があります。

経営所得安定対策の「水田活用直接支払交付金制度」が改定され、5年に一度は水田として活用することを条件とされたことにより、事業実施が困難となることが想定されます。

本制度について地域の実情を考慮した制度の見直しを県・国に求められたい。

日本の農業に、  
未来と希望を。

# Agri Robo

先進の自動運転テクノロジーが動き出した。



株式会社  
東海近畿クボタ

豊岡営業所  
豊岡市木内228-1  
TEL 0796-22-5141

出石営業所  
豊岡市出石町町分95  
TEL 0796-52-3036

日高営業所  
豊岡市日高町松岡153-3  
TEL 0796-42-2628

## 城崎地域



が金網  
やメッ  
シユ網  
で全体

城崎地域の農地利用最適化推進委員を担当して早くも6年が経とうとしています。

城崎地域の農地は山間の小規模農地群で広くて2反、それ以下が連続と続いている圃場が大半です。昭和40年代までは、兼業農家が主流の自己管理で潤っていました。機械が入らない山地は衰退やむなし、湿田は徐々に管理地化が進み現在に至っています。このような中、戸島耕地や下島耕地は大規模圃場整備が実施され広大な区画の圃場に変わり、今は集落営農化されています。

農地パトロールで目に付くのは、遊休農地の増加です。そのいちばんの要因は人材不足です。最近離農された方々に聞くと「今まで請け負っている人達も高齢になり無理は言えないし、比較的若い人は自分の所で精一杯と言われる。」と、途方暮れておられました。

更に追い打ちとなつていのが有害鳥獣対策です。城崎地区はほとんどの農地が山裾に位置し、特に鹿と猪の対策なしでは耕作できません。飯谷地区や来日地区などは集落全体



来日地区の農地の状況

を囲まれています。しかし、起伏があり、河川や道路を挟むと途切れてしまい方には出来ません。最後は個々の対策になつているのが現状です。

二見中山間地域は、山裾に3町歩余りの耕地の中、沿うように市道とJR線が通っています。これまで電気柵対策していましたが被害が抑えきれず、三年前、金網メッシュを奨め翌年度に完成しました。この秋は被害が出ましたが、幸い市道を跨いでの侵入はありませんでした。

他の地区でも同様な状態が見聞きできました。改めて農地の保全の難しさを感じています。今年度残された期間、様々な課題はあるものの、委員として最後まで頑張つていく所存です。どうかよろしくお願いたします。



岩本推進委員



石橋農業委員

(推進委員 岩本 照雄)

## 弘道・福住・寺坂地区 (出石地域)



私の担当しているのは、弘道・福住・寺坂地区です。平地は圃場が保たれていますが、山間地では、遊休農地が多く、徐々に増加してきています。我々の任務は、その農地を活性化することです。食料の確保だけでなく、防災・環境保全にも対応した重要な役割を担っています。そのような中で一番心配しているのは、農業人口の著しい減少です。現代では60歳で定年し、帰農するよりも、会社勤めを続ける人も多く、農業への関心が薄れているのが現状です。兼業農家の減少もあいまつて、専業農家の数はまだ少ないです。

当地区の土地改良区は一ヶ所です。中山間地の遊休農地化、山林化を防ぐには、基盤整備をして耕作地を増やすことが必要だと思います。そのためには、地主の理解が不可欠です。このような状況が続けば、農業人口の減少につながる一因となると思います。

これから農地を守り、食を守る活動が私達の使命と考えております。どうか農家の皆様には、私達の活動へのご理解とご協力をよろしくお願申し上げます。



農地パトロール



川見推進委員



井谷農業委員

(推進委員 川見 正康)



福住地区の農地の状況

昔から農家や地域で大切に守られてきた多くの特産農産物を皆さんに知ってもらい、地域農業の振興に役立ててもらうため、この特集を行っています。今回は「紫黒米(しこくまい)」と「神鍋高原スイカ」です。

### 紫黒米(しこくまい)

豊岡市市場の中嶋照彦さんは、現在、約10aの田んぼで紫黒米を無農薬、無化学肥料で栽培しております。

紫黒米は古代米の一種で、今の米には無い栄養成分が含まれ、健康のために良いと言われています。これは糠に含まれるビタミンB・Eなどのビタミン類、リン、カルシウムなどが含まれ、生活習慣病やガンを抑える抗酸化機能を持つとされています。紫黒米の色素であるアントシアニンは、タンニンと同様ポリフェノールの一種であるが、特に肝機能や視力の増強の効果があるとされています。アントシアニンを含む黒い食べ物の機能性が近年非常に注目されています。

以前は、有機JASと一般社団法人MOA自然農法文化事業団の両方の認証を受けておられました。現在は後者の方一本で、毎年検査を受けて栽培しております。昨年から、バインダーで刈取りをして天日干しに取り組んでおられます。一時的に懐かしい日本の原風景が出現します。作業は大変ですが、



天日干される紫黒米

従兄弟が手伝いにきてくれて非常に助かっているそうです。

販売先としては、自然食品の店を全国展開されている株MOA商事に主に出荷されています。豊岡では「たじまんま」や「コウノトリの郷公園」で販売しています。

「『人間の健康と地球の健康のために』という壮大なテーマをモットーに、自然農法を続けていきたいと思っています。」とおっしゃっていました。

(農業委員 栗原 安信)

### 神鍋高原スイカ

8月21日、道の駅「神鍋高原」で「第7回神鍋高原スイカまつり」が開催され、当日の状況を店長の川辺麻紀さんにお聞きしました。

イベントは、午前10時、カットスイカ450食の無料配布で始まりました。これは、「先ず、実際に食べてもらって神鍋高原スイカの美味しさを実感していただきたいから」とのこと。その後、大食い競争、大玉スイカの重量当てクイズ、スイカトラック販売などのイベントが続ぎ、ご家族連れで大いに賑わったそうです。

現在、道の駅の直売所に納入している生産者さんは13名で、徐々に増えているそうです。今年の販売数は、2、339個で、味の保証の為、納入時には、そのロットの1個を無作為に抽出し、実際に切って、糖度検査をし、糖度11度以下は、ロット返品するそうです。そこまでするでも、

納入生産者の「ふれあいふあーむ」の会の皆さんと、昔の盛況を復活させたいと



カットスイカの無料配布



スイカトラック販売

のことでした。

また、生産者のお一人、北村哲三さんに、美味しいスイカ作りの条件と秘訣を尋ねてみました。

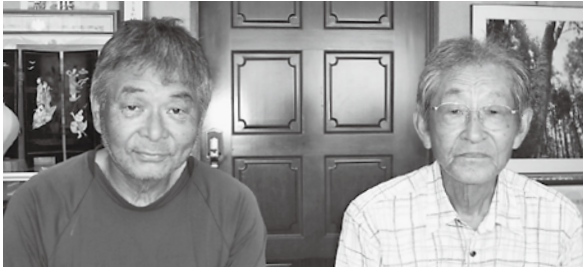
「美味しいスイカの条件は、高原の寒暖差が大きい気候条件と、「黒ボク」と言われる火山灰地質は有機物の含有量が多く、保水性や透水性がいい地質がそろっていること」とのこと。秘訣は「初期育成を抑え、強く育てるため、植込み直下に施肥せず、半径2m程度離し施肥する。とにかくスイカは外見で良否の判断が出来ないから難しい」とのこと。

「作る人」「売る人」それぞれの努力・工夫・想いがあったり成り立つのだと感じました。

(農業委員 中島 覚)

## 「心は一つ、力を合わせ、譲り合い、 楽しく、仲良く、むら繁盛」

農事組合法人観音寺営農組合（日高町観音寺）



水上組合長 水田相談役(前組合長)  
お話をうかがったお二人

「観音寺営農組合」は、平成19年に、組合員47戸で設立。平成22年法人化、令和3年度農地バンク利用権設定（127筆）等の経過を経て、本年度で設立15周年を迎えられました。

観音寺区は日高町の三方地区内にあり、妙見山系観音寺川沿いの全戸71戸の集落で、内53戸が組合員であり、全圃場面積は23ha（うち水稲15ha）とのこと。圃場のほとんどは耕地整理された15a以上の圃場で構成されています。水にも恵まれ、稲作の安定生産に寄与しています。

現在の組織は、水上組合長筆頭に、9人の役員と組合員で構成され、圃場10haを組管理田として集積し、更に昨年度は初めて18aの遊休圃場を購入し稲作を開始されました。また、組合員の希望により、稲作の全行程作業を請負い、且つ、作業料金は日高町の基準料金の80%程度と安価とのこと。

15年間の大きな節目は、平成22年の法人化、令和3年度の農地バンク利用権設定です。多様な担い手の確保と観音寺農業の持続可能な地域政策を区・農会・営農が一体となって確立し、新しい人事体制のもと、組織と活動の一体化が図れたことです。また、草刈応援隊が結成され、農家以外の方の参加も嬉しいことの一つです。

そんな中でも、昨今の米価の下落、転作作物（大豆等）の不作により、事業収支は厳しいが、法人機能をフル回転させ、一層のコミュニケーションを図り、区民の皆さんに役立つ組織として、歩み続けたいとのことでした。

（農業委員 中島 覚・原 清美）

## 「但東町の農業担い手を目指して！」

橋本 孝文さん（但東町小谷）

橋本孝文さん（33歳）は結婚を機に「本格的に農業をやりたい」と思い、福知山市から但東町に移住し、今年の4月に「豊岡農業スクール」に入校されました。

現在、「ひらた営農組合（福田春彦組合長）」の下で研修中です。

ひらた営農組合は、組合員36人、11haで、コウノトリ育むお米、ピーマン、とうもろこし等無農薬の農業栽培を目指されています。また、スマート農業推進事業を取り入れ、今年は、コンバイン・動力噴霧器・洗浄機、畦塗機を導入。来年は、田植機・除草機等の導入を予定するなど、農業の近代化、省力化推進を行っておられます。

その中で橋本さんは、畔塗、田植え、夏のとうもろこしもぎ取り園、ピーマン収穫等精力的に研修中です。なかでもとうもろこし園では、リピーターも増え、ご家族連れのお客さんには試食で「甘くてとってもおいしい。また来たいな。」との声を聞き、「消費者のみなさんと直接触れ合えるのは楽しいし、やりがいもあり嬉しかった。」とされていました。

福田組合長さんは、「将来は、平田地区のみでなく、但東町高橋地域の農業を担って行きたい。そのためには後継者である若者の育成に努めたい。橋本君にも大いに期待している。」と話されていました。

橋本さんは、「但馬で活躍している同世代の仲間と共に助け合いながら研修を積み、この但東町の魅力ある農業の担い手として頑張っていきたい。」と意気込んでおられます。

若者たちの活躍により地域の農業が発展することを期待しています。

（農業委員

井谷 勝彦）



橋本孝文さん

表紙について ▶ 八代オクラの収穫に挑戦!! 「八代保育園の園児たち」

8月30日、好天に恵まれて、八代保育園の年長組のぶどう組さん12人が、八代コミュニティが作付けしているオクラ畑で毎年恒例の八代オクラ収穫に挑戦しました。

八代オクラの特徴は、普通のオクラが五角形で5cm～7cmで収穫するのに対して、八代オクラは七角形か八角形で8cm～12cmで収穫します。

ハサミを渡され、怪我をしないようにと注意を受けて、一斉にオクラ畑へ。ボランティアの方々にもお手伝いをしていただきながら、わいわいがやがや、賑やかに始まりました。力が入ってオクラの木を折ったり、背伸びをするけどあと少し届かなかったりしましたが、あっちこっちで「採れた!」と聞こえてきました。やっと収穫できた時の嬉しそうな顔!

収穫すること約30分。園児たちが満足そうな、嬉しそうな顔をして、小さな手からはみ出したオクラを持って引き上げてきました。「早く食べたいな、楽しみだな!」「今日の給食に出るのかな?」と言いながら、収穫したオクラと一緒に記念写真をパチリ!!

(農業委員 平野 薫)



全国農業新聞を購読してみませんか!

農業の最新情報を提供

週刊(毎週金曜日発行) 月700円  
(送料、消費税込)

\*お申し込みは  
農業委員会事務局または、  
地元の農業委員・推進委員  
まで

編集後記

担い手不足、荒廃農地などの農業問題は、関係各位の努力にも関わらず、容易に解決できない大きな課題です。新たに改定された人・農地・プランは、農地の集積を進め、作業効率を高めて生産性を向上するよう市町村にその策定を求めています。

農業・農村問題を農業者だけでなく地域の問題として共に考え、ふるさとを守り次世代に自然豊かな農村を残していきたいものです。

終わりに第53号「とよおか農委だより」の発行にあたりご協力をいただきました皆様に感謝を申し上げます。

(編集委員長 原 清美)



農委だより第53号は私たちが担当しました。  
後列左から 平野委員、石橋委員、中島委員  
前列左から 栗原委員、原委員、井谷委員